

クラス	QA302	担当教員	大饗 広之 (おおあえ ひろゆき)
テーマ	現代青年の心理 & 心理療法		
著書・論文	「豹変する心」の現象学 (勁草書房、2009)		
	「なぜ自殺は減らないのか」 (勁草書房、2012)		
研究課題等	「幻想としての<私>」 (勁草書房、2017)		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード： 青年期、解離、トラウマ、アスペルガー、心理療法			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p>自分の興味あるテーマを見つけ、それをとことん追いかけてみるというのが研究の本来あるべき姿です。2年間で自分が何をしたいのかを煮詰めていくのもなかなか大変な作業ですが、そういう人もゼミでのディスカッションを通じてピッタリするテーマを探していけばいいでしょう。それは人生の財産になると思います。とくに現代青年とかに限定するわけでもありません (老人でも結構) が、このゼミでは大体以下のようなスタイルで進めていきたいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分のテーマに関係のありそうな文献を発表</li> <li>2. 大まかな研究計画を立てる</li> <li>3. 適切な相手を探してカウンセリング的アプローチの練習、その逐語録を持ち寄って検討。カウンセリング技法の基本を身につける。</li> <li>4. 方法を検討し、実際のテーマにそって対象にアプローチを試みる。</li> </ol> <p>カウンセリング的な (質的) アプローチが中心となるので、当然ながらゼミで話し合われたことは厳密に秘密が守られる必要があります。やる気のある人、一人でも自分のテーマを追いかけてみたい人、実際に臨床に興味があって目指している人など歓迎しますが、「みんな一緒に仲良く」をモットーにしているグループ志向の方に合わないかもしれません。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>単位取得についてはとくに3年時は出席を重視します。臨床を志向している人、自分に自信のない人、緊張してしまいそうな人など大歓迎。出席に自信がない人、秘密が守れそうにない人は避けていただくのがいいかと思っています。</p>			